



Julie Hayashi

transient 18 June – 16 July 2021

PIER WEST SQUARE 1F 1-11-8 Tsukuda, Chuo-Ku, Tokyo

Gallery Art Composition では林樹里個展「transient」を開催いたします。

林樹里は 2015 年より、陰影を主題とした「かけ」シリーズを手掛け始めました。今回の展覧会は、その「かけ」の作品のみで構成された初めての展覧会となります。

林樹里は、大阪府出身の日本画家。2015 年に東京藝術大学大学院の美術研究科文化財学専攻で博士号を取得しました。東京藝術大学で保存修復を学ぶ傍ら、厚手の麻紙に薄い美濃紙を重ねる技法で作品を制作してきました。この技法は学業で触れた伝統的な表具技法を応用したもので、種類の異なる和紙を用いたレイヤー構造は、地面や小石などの物質的なモチーフとそこに落ちる影の両方を、一つのイメージへと統合しています。本展のタイトルとして採用された「transient」は「はない」や「一時的な」を意味する言葉です。描き出される影は、その展覧会タイトルに象徴されるように、実体そのものではなく、うつろいやく時間やその気配をも表しているかのようです。

今回の展示では新たな試みとして水面と窓辺を主題とした「かけ」の作品も発表いたします。従来の作品では、壁面や地面に落ちる樹木の影が主要なモチーフとして採用されていました。新しい作品では、硬質な物体ではなく、水面に落ちることで緩やかにたゆたう影を描き、窓辺に伸びる花瓶の影を採用することで、従来の作品にはなかった人や生活の気配を導入しています。

また本展の関連イベントとして、林は Kuromon Sustainable Square（以下、KSS）でも特別展示「reminisce」を行います。2021 年に湯島にオープンした KSS は、サスティナブルで「生活を豊かにする」日用雑貨を販売すると同時に、絵画を常設展示するギャラリーも併設しています。KSS のギャラリーに林樹里の「かけ」シリーズも常設されている事が、今回の関連イベントにつながりました。

新たな挑戦と試みにあふれた林の展覧会を、この機会に是非ご高覧ください。

傍 (2022)  
S20, mixedmedia

林樹里 Julie Hayashi

1989年、大阪府生まれ。2018年、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復研究領域（日本画）博士課程修了。2019年より東京藝術大学COI拠点特任助手。日本美術院院友。主として自然をモチーフに、厚手の麻紙に薄い美濃紙を重ねる技法で「かけ」や「にじみ」「透過」などのシリーズを展開している。

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。

掲載用写真の貸出など、ご不明な点やご質問がございましたら、下記までお問い合わせ頂ければ幸いでございます。

Gallery Art Composition

プレス担当：福岡仁

東京都中央区佃1-11-8 ピアウエストスクエア1階

TEL：03-5548-5858

MAIL：info@galleryartcomposition.com

WEB：[https://www.galleryartcomposition.com/index\\_jp.html](https://www.galleryartcomposition.com/index_jp.html)

営業時間：11:00 – 18:00

休廊日：日・月・祝